

団体名	あいづCAP	活動タイトル	乳幼児のママへ「あなたは大切」キャンペーン & CAPワーク事業		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景		
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	当団体の実現したいビジョンは、「子どもの人権が尊重され子どもへの暴力のない安心して暮らせる社会」である。子どもへの暴力のない社会とはすべての人が安心して暮らせる社会である。具体的には誰もが平等に持っている人権＝生きるために欠かせない基本的権利「安心」「自信」「自由」を奪われることなく、また自分から投げ出すことなく、持っている力を豊かに輝かせながら生きることのできる社会である。その実現のために、おとなが「人権」の意味をしっかりと理解し、おとな子どもの差別なく尊重・受容することで子どもが「私は大切な存在」だと感じることのできるような社会づくりをめざす。		 <p>CAPおとなワークショップ「ママカフェ版」</p>		
●団体の社会的役割(ミッション)	当団体の社会的役割（ミッション）は、暴力のない安心な社会、つまり暴力の連鎖を止めるために、誰もがかげがえのない大切な人であることを意識して肯定的にかかわり合うように促すことである。具体的にはCAP（暴力防止プログラム）によって暴力についての正しい知識とその防止方法を伝えるために以下のような取り組みを推進する。 ◆おとなワークショップを提供し、暴力についての正しい知識、なぜ子どもが暴力に遭いやすいのか、子どもの支援の方法を伝える。学校・家庭・地域を子どもを支援できる環境に変える。 ◆子どもワークショップを提供し、「すべての子どもに安心・自信・自由の権利と自分を守る力がある」ことを伝える。暴力によって権利が奪われそうになったら、何ができるかを子どもと一緒に考える。解決のためスキルを教え選択肢を増やす。特に相談することの大切さを伝え、子どもが孤立しないように支援する。				
●団体の活動基盤	◆人材の確保と育成：活動基盤の強化として、事務・渉外等の運営を担える人材を育成する。団体の活動会員が運営やワークショップ事業に積極的に参加するよう、さらなる情報共有と役割分担を明確にする。対象別プログラムの有資格者を把握し、実践できる人材を育成する。 ◆活動資金：助成金を活用しながら会費・寄付・自主事業で活動し、将来的には市町村、県、国が暴力防止のための予防教育予算を確保するよう行政へ働きかける。 ◆ナレッジ：これまでに学んだ専門的なノウハウや経験から培ったことを団体の中で共有し、運営や事業、人材育成に活かせるようにする。				
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況		
<p>◆CAPおとなワークショップ「ママカフェ版」の実施</p> 乳幼児を持つ若いママたちをエンパワメントし、子育て不安の減少と孤立を防ぐため、市町村の保健福祉課や子育て支援課、子育て支援センター等に働きかけ、CAPおとなワークショップ「ママカフェ版」を実施した。 ◆CAPおとなワークショップの実施 おとながエンパワメントアプローチを学んで、震災後の不安やストレスの影響を受けている子どもをエンパワメントできるよう、子どもへの支援のスキルを高めるCAPおとなワークショップを実施した。 ◆CAP子どもワークショップの実施 いじめや虐待などの暴力に遭ったら何ができるのか、「大切な自分」を守るための具体的なスキルを学び、漠然とした不安を勇氣に変えるCAP子どもワークショップを実施した。 ◆スタッフのスキルアップ研修 年齢・対象別プログラムのワークショップ依頼に対応するため、また質の高いプログラムを提供するため、スキルアップ研修を実施した。			<p>◆CAPおとなワークショップ「ママカフェ版」の実施</p> ①開催7回（子育て支援センター3カ所、子育てサークル等4カ所、参加者46名） ②目標アウトカム：ママたちの人権意識の向上と子育て不安の軽減（安心感アップ） ・人権意識の向上：90%以上が3段階以上アップ。子育て不安の軽減：全員が3段階以上、安心感がアップ。 ◆CAPおとなワークショップの実施 ①開催8回（教職員ワーク1回、保護者ワーク1回、一般・支援者ワーク6回） ②目標アウトカム（暴力防止の正しい知識とエンパワメントを学び子ども支援のスキルを高める） ・全員がエンパワメントは子ども支援に役立つと回答（とても役立つ90%、少し役立つ10%） ◆CAP子どもワークショップの実施 ①開催2回 ②目標アウトカム（人権を学び「大切な自分」に気づく。具体的なスキルの選択肢が増える） ・「自分を大切だと思う」が71%から85%に増加。具体的なスキルの選択肢が増加した。 ◆スタッフのスキルアップ研修 ①開催3回 ②目標アウトカム（ワークショップ提供の安定化を図る） ・就学前ロールプレイの習得者が3名増え、実際にこども園ワークに役立った。		<p>上段：CAPおとなワークショップ</p>  <p>下段：CAP子どもワークショップ</p> 
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題		
<p>◆「ママカフェ版」は通常のおとなワークショップと違って赤ちゃん連れなので、適した会場や参加者が集中できる工夫した。また、託児の必要性などガイドライン作成のベースができ、参加者が安心できる場の雰囲気づくりを工夫した経験は力になった。</p> <p>◆感染防止対策ガイドラインを作成し、ワークショップを安全に実施することができたことで、今後も自信をもって提案できる。</p> <p>◆おとなワークショップは、様々なおとなを対象に実施したことで、参加者の多様性を尊重しながら子どもの視点で伝えることを学んだ。</p> <p>◆他グループと協働に必要な情報共有を確認した。</p> <p>◆スタッフ研修については具体的な目標設定でスタッフのスキルアップを図ることで成果があった。メンバーの力を結集し、意識が向上した。</p> <p>◆広報活動ではアポイントメントの工夫と方法、活動記録の整理と活用方法を学んだ。</p>			<p>当団体は、「子どもの人権が尊重され、子どもへの暴力のない安心して社会」の実現をめざしている。誰もが暴力のない社会を望んでいるにもかかわらず、まだまだ暴力防止の予防教育に目を向けられていないと感じている。CAPは、いじめや痴漢、誘拐、虐待、性暴力といったあらゆる暴力に対応する人権教育プログラムである。学校や保育園で子どもたちにCAPを届けるためには、教育委員会や学校（小学校・中学校）、幼稚園・保育園へ広報し、予防教育の重要性をもっと伝える必要がある。</p> <p>今後は、子どもへの暴力防止には学校・家庭だけでなく、地域を含むコミュニティで子どもを孤立させないように見守る必要があり、地域にもCAPプログラムを周知拡大したいが、CAPプログラム実施のために必要な資金の獲得は大きな課題である。また、人材育成とスキルアップにも取り組んでいきたい。</p>		<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> <p>この1年間の活動を通じて</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大で事業達成が危ぶまれたが、CAPおとなワークショップ「ママカフェ版」を7回、おとな・子どもワークショップを併せて10回実施し、参加者の人権意識を高めることができた。また参加した乳幼児のママ、おとな、子どもたち全員の安心の度合いが2割以上増すという目標</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（効果測定結果等）</p> <p>CAPおとなワークショップ「ママカフェ版」に参加した若いママたちは、生きるために大切な「安心・自信・自由」の人権が自分にも子どもにもあることを理解し、「安心な環境を子どもに保障したい」「子育てに活かしたい」と語っていた。子どもワークショップでは参加者28人のうち「あなたは自分のことを大切に思いますか」の問いに対して「思う」と答えた子が、実施前の20人に対し、事後は26人に増えた。おとなワークショップでは参加者100人のうち79人が子どもの話の聞き方やエンパワメント（子どもの力を信じて持っている力を引き出すかわり方）が役に立つと回答（アンケート回収79枚）した。固い表情だった参加者も安心な場、受容的な雰囲気の中で受講し、ワークショップ（エンパワメントを体験）後は柔らかな表情になった。</p>